

B-70 人工汚染布調製用カーボンブラック試作  
の基準設定に関する研究 (第2報)  
試作カーボンの汚染性, 洗浄性につ  
いて

県立新潟女子短大 ○多田 千代  
中沢 ミワ

1. 第1報に引続いて, 試作されたカーボンの標準綿布における汚染性, 洗浄性を, これまで用いられていた玉川カーボンのそれとの比較において検討した。

2. 汚染性をしらべるための汚染液組成は, C Cl<sub>4</sub> 200 g, カーボン 0.1 g, 牛脂 0.1 g, 流動パラフィン 0.4 g で洗浄性をしらべる場合にはカーボンの量を加減して反射率 $30 \pm 2\%$ の汚染布を作った。洗剤はマルセル石けんと非イオン系界面活性剤, 濃度は 0, 0.1, 0.3%, 温度は 40°C, 時間30分, Launder-Tester で洗浄して表面反射率測定により洗浄効率を算定した。

3. (イ) 3原料とも玉川カーボンと同等, またはそれ以上に均一汚染布がえられる。

(ロ) 汚染性は原料別, 炉内温度別, 空気流入の機構別に差がみられるが, 洗浄性はこれらの影響をうけない。

(ハ) 水洗浄と洗剤洗浄の差異は明瞭で玉川カーボンと同等程度である。

(ニ) 700°C以上で熱処理をすると, 汚染斑ができやすく, 洗浄性も水洗浄と洗剤洗浄の差が少なくて不適当なカーボンとなる。

(ホ) 油状成分を抽出した場合の汚染性, 洗浄性は未抽出カーボンと大差がない。